

協力と共生の道探る

神大アジア研究センター開設記念でシンポジウム

神奈川大学横浜キャンパス（横浜市神奈川区六角橋）内にある同大アジア研究センターの開設記念シンポジウム「アジアのパラダイム・シフト」協力と共生への道を問う」（神奈川新聞社など後援）が6日、同キャンパスに学生や市民約400人を集めて開催された。同センター主催。

（佐藤 浩幸）

神奈川大アジア研究センターは、学部横断的なアジアの研究組織として今年4月に開設された。シンポジウムの第1セッションは、「北東アジアにおける



アジアのさまざまな課題を語り合ったシンポジウム会場
＝横浜市神奈川区の神奈川大横浜キャンパス

政治対立と安全保障」がテーマ。北京外国語大の謝毅教授は中国による東シナ海上空への防空識別圏設定について、「中国が撤回することはしない。日本が識別圏を無視して飛行すれば中国も同じことをするだろう」と予測した。

韓国・国民大の李元徳教授は日韓関係改善に向け、「相互の誤解を取り除くためにも、早急に中国も含めた3カ国の首脳会談を開く必要がある」と提案した。

北朝鮮の核問題に対しては、韓国・慶

南大の金根植教授は「北朝鮮の核武装は自衛が目的だったが、今年実施した3回目の核実験から攻撃的な意味合いに変わった」と指摘。解決の前提となる朝鮮半島の平和構築に向け、韓国が努力する必要性を訴えた。

神奈川大の佐橋亮准教授は「不測の事態を避けるため、信頼とコミュニケーションのチャンネルを中韓両国とつくっていくことが大事だ」と強調した。

経済連携・経済外交の行方や、成長著しい東南アジアと日本の関係を考える両セッションのほか、記念講演も行われた。